# 口コミデータのテキストマイニングから見た横浜中華街への評価

## 要旨

氏名：鈴木詠子

神奈川県横浜市にある横浜中華街は、日本を代表する観光地として長い歴史と伝統を持つが、近年その店舗構造や観光客の消費動向に変化が見られる。本研究は、2020年前後に見られる横浜中華街の2つの主要な変化とメディアで指摘された①占い店の増加、②食べ放題店の増加について定量的に分析し、それが観光客の期待や満足度、消費行動にどのような影響を与えているかを明らかにすることを目的とする。

調査対象地は、横浜市中華街発展共同組合が施行した「街づくり協定」の適用範囲で、総店舗数約630店から構成されるエリアである。本研究では、第一に業態別店舗数の変化を調査した。第二に株式会社リクルートが運営する口コミサイトであるじゃらんnetの口コミデータをテキストマイニングしたうえでポジティブ・ネガティブな口コミに分類して、それぞれの郡に現れるトピックを分析することで、横浜中華街の変化と来訪者の意識や行動を評価した。

分析の結果、占い店は2011年以降増加トレンドにあり、特に2019年と2024年で急増が見られた。また、コロナ禍による一時的な減少を経て、2023年以降再び増加している。増加が顕著な関帝廟通りでは、人通りが少なく落ち着いた雰囲気が非日常的な雰囲気やパワースポットとしての特徴が占い需要を引き出していると考えられる。この変化に対する来訪者の反応は概ねポジティブであり、観光体験の一環として占いを楽しむ傾向が見られた。一方、食べ放題店は2019年以降増加し、2021年をピークに微減している。特に大通りや関帝廟通り、香港路付近での増加が目立ち、香港路では従来の中華料理店が食べ放題業態へシフトしていると推測される。この地域はかつて地元住民の日常利用が中心だったが、現在では若年層を中心とした観光客が集まるエリアへと変容している。口コミ分析では、食べ放題店に対し「種類の豊富さ」が評価される一方、「客引き」や「混雑」に対する不満もあり、賛否両論の反応が見られた。

その他に口コミから新たに判明した横浜中華街の近年の変化として、観光客が気軽に散策しテイクアウトを楽しむ場所へと変化している傾向も示唆された。

## 参考文献

齋藤譲司,市川康夫,山下清海. (2011).「横浜における外国人居留地および中華街の変容」『地理空間』4(1), 56-69.

末廣拓登.(2020).「『横浜中華街』の形成過程とその要因に関する研究」.日本建築学会計関戸明子.(2001).「横浜中華街における華僑・華人の生活様式」

画系論文集,89(825),2115-2125.

神奈川新聞.（2019）.「横浜中華街、組合員が激増　手を携える新旧の華僑」,（https://www.kanaloco.jp/news/economy/entry-188351.html,2025年1月8日最終確認）

福田としひこ,「横浜中華街にある各門には、どんな意味があるの？」.（2018）はまれぽ.com

PRESIDENTOnline.（2022）.「中国料理店より勢いがある…コロナ禍の横浜中華街でどんどん増えてる『意外』な商売」（https://president.jp/articles/-/54717?page=1,2025年1月8日最終確認）

長友麻苗未.（2009）.「横浜中華街の発展とブランドイメージ横浜中華街の発展とブランドイメージ」
日本経済新聞.（2022）.「横浜中華街に異変　法人需要戻らず、若者の街に.」
横浜中華街発展会協同組合.“横浜中華街に関するQ&A”.横浜中華街.（https://www.chinatown.or.jp/guide/q_and_a/,2025年1月8日最終確認)

横浜中華街発展会協同組合.「街道指南横浜中華街」